

To Office of Experimental  
Planning and Coordination

Date 2002/11/27

MACHINE TIME EXECUTION  
REPORT (2002-4-1 CYCLE)

Experimental Group	T523	Reporter	歳藤利行
Scheduled Period and Shift	11月15日 17:00~17日 17:00	Main, Sub, Para	

Experimenters 星野睿 歳藤利行 伴尊行

SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS

de/dxの測定による $\pi/\mu$  IDの解析では、最小電離粒子の数倍程度の飛跡の濃さ(グレイン密度)を測定する必要がある。その解析の校正用のサンプルを得るために、エマルションプレートと厚さ1mmの鉛板を交互にはさんで真空パックしたモジュールに、正電荷で運動量が0.6,0.8,1.0,1.2GeV/cのビームを照射した。この場合ビーム中の陽子が $\pi$ に比べて濃い飛跡となる。

4種類の運動量に対してそれぞれビームに対する角度が $\tan(\theta)=0.3,0.6,1.0$ となるように2スピル程度ずつ(5000粒子/cm<sup>2</sup>)照射した。

照射後のモジュールは名古屋大学F研で現像し、予定したトラック密度でうまく照射できたことを確認した。

EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.

IT  $\pi$  2

COMMENTS